

ネギを主体とする野菜経営体の育成

県北農林事務所経営・普及部門

常陸太田市にある JA 常陸太田地区ネギ部会は、大宮地区とともに広域銘柄推進産地です。常陸太田市のネギ経営体は、ネギを経営の主軸とし機械導入による規模拡大を目指すとともに、ネギ以外の露地野菜の導入や6次産業化の取組等により所得向上を目指しています。また、新規でネギ栽培を行う経営体が徐々に増えています。

当部門では、産地における新規栽培者の受入れ体制の整備や、機械化による規模拡大を支援するとともに、ネギ以外の露地野菜栽培や6次産業化による加工技術支援など、総合的な野菜経営体の育成を行っています。

規模拡大に向けた収穫機の導入支援

ネギ経営体には規模拡大を目指す経営体があります。当部門では、収穫機導入によりどの程度労働時間が短縮され、どの程度規模拡大が図れるのかを数値化して経営体に提示するとともに、関係機関と連携し、補助事業の活用を支援しました。

その結果、令和3年度までに、4戸の経営体が収穫機を導入しました。収穫機を導入したある経営体では、栽培面積が約1.5倍へと拡大し、収量も約140%に増加しました。



写真1 収穫機によるネギ収穫の様子



写真2 新規ネギ栽培者へのネギ栽培講座の様子

新規栽培者確保・育成

ネギを県北地区で所得が確保できる品目の一つとして位置づけ、関係機関と連携して、新規栽培者の確保・育成を行っています。

令和3年度は、研修受入れ体制の整備やJA常陸主催の「チャレンジ農業講座」を活用した栽培・出荷調製作業の講習会等を通じて、2名の新規ネギ栽培者を確保しました。

ネギ以外の露地野菜導入支援と加工指導

ネギ経営体の中には、更なる所得向上を目指し、ネギを経営の主軸としつつ、ネギ以外の品目を導入する経営体もあります。

昨年、新規でカンショ栽培と干しいも加工を始める経営体から相談を受け、栽培・加工に関する指導を行いました。その結果、対象の経営体は令和2年と比較し、粗収益を約140%に向上させることができました。



写真3 カンショ挿苗の様子、加工した干しいも